

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	札幌市かしわ学園			
○保護者評価実施期間	令和6年12月9日		～	令和6年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数)	24名
○従業者評価実施期間	令和6年12月3日		～	令和6年12月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数)	19名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月6日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こども達の発達や特性に応じて支援方法や環境を考え、その結果を保護者へ伝達したり、制作物を掲示して皆で共有したりしている。	・絵カードや写真など視覚的な方法で情報をわかりやすく伝えている。 ・同じ題材の遊びでもこども一人ひとりのもっている力に合わせて、一緒に活動できるように設定している。 ・日々の日課や行事の時に、こどもが安心して活動できるように環境を工夫している。	・こどもの状況に応じた職員配置や環境整備について職員間で適宜検討し、最大の効果をねらい実施を図る。 ・園内研修等により、職員のスキルアップと専門性の向上を図る。
2	児童発達支援計画については、保護者の意向を反映させ、職員間で十分に検討する丁寧な取組を実施している。	・児童発達支援計画の作成に、多職種が関わることで、いろいろな視点から意見を出し合い検討できるようにしている。 ・保護者には、児童発達支援計画に沿って具体的かつ丁寧に説明するよう心がけている。 ・こども一人一人に合わせて、空いているスペースを活用したり個別に関わったりなど、柔軟に対応できるようにしている。	・家庭でのこどもの姿に合った支援方法の提案を行う。 ・個々の活動プログラムに合わせ、小集団のメンバー構成等を考慮し柔軟に対応していく。 ・活動プログラムにおいて、個々に合わせた活動があることを含めて保護者の方に丁寧な説明をする。
3	他機関との連携を図り、発達支援に生かしている。	・子ども心身医療センター等医療機関に受診している園児については、保護者の同意の元、主治医やセラピストと連携を図り、医療と福祉が連携するように努めている。	・他職種の方の意見や助言を真摯に受け止め、職員全体で共有を図り、発達支援の内容の充実を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・通園頻度の違いによる、小集団が作り難く大人との関りが中心となりやすい。	・こどもの通園頻度にばらつきがあり、他児との関係を築く機会が少ない等から効果を期待できる発達支援の方法を工夫することが多い。 ・保護者が、小集団として発達支援することでのメリットを実感し難い。	・成功した取り組みを職員間で積極的に共有し、柔軟な考え方で活動を考えて進めていく。 ・通園頻度にばらつきがあっても、頻度が高いこども達には多様な遊びを提供し、頻度が低いこども達も一緒に遊べるようにするための工夫が必要である。 ・小集団での遊びの良さを保護者に伝える必要がある。
2	・地域交流について	・地域交流としてひまわり整肢園、ちあふるとよひらとの交流は行ったが、機会が少なく、年齢にも制限があった。 ・地域交流を行っていることについて、保護者への周知の方法に工夫が必要だった。	・地域交流の機会を増やしていく。 ・対象児の年齢制限を設けない。 ・保護者に交流の様子を知ってもらうために、写真の掲示やかしわだよりで紹介するなど周知方法を工夫していく。
3	・非常時等の対応の各種マニュアルについて保護者への周知不足 ・保護者・地域の方等の外部に対する発信力不足	・入園時等の説明などで伝えているが、そのあと改めて確認や周知する場面を設けていなかった。 ・コロナ禍の影響で地域の方等外部との関わりが難しくなった。	・何回か周知する場面を作ったり、見える化を図り、保護者のタイミングで確認できるようにしていく。 ・HPは、写真やイラストを用いるなどわかりやすい内容での発達を確認する。 ・パンフレットを保健センター等に設置して、かしわ学園自体を周知していく。